小山川（こやまがわ）を起点に深谷再発見！

利根川と荒川、２大清流による豊穣な大地に恵まれた深谷。

古くから川と深く結びついた生活、風土に根差した文化を育んできました。

利根川の支流である小山川もまた地域に恵みをもたらし続けている川のひとつです。

現在進められている「小山川ウォーク＆サイクルロード」が、利根川サイクリングロードとつながることで、川と親しむ新たな環境が整ってきています。

この機会に、このスタンプ帳を持って、小山川エリアへでかけてみてください。

今まで知らなかった深谷を“再発見”できるかもしれません★

豆知識コラム１　利根川と小山川

利根川は、群馬県の大水上山（おおみなかみやま）を水源とし、関東地方を抜けて太平洋に注ぐ一級河川。その流域面積は日本一で、小山川を含む支流の数では日本第３位！古くからよく氾濫（はんらん）を起こす暴れ川で、「坂東太郎（ばんどうたろう）」とも呼ばれます。

小山川は秩父地方に水源を持つ利根川水系の一級河川で、皆野町、本庄市、美里町、深谷市を抜け、熊谷市に入ったところで利根川に合流します。

豆知識コラム２　小山川ウォーク＆サイクルロード

小山川沿いで整備を進めている歩行者と自転車のための道。令和２年度の完成を見込んでおり、完成すると小山川下流の利根川サイクリングロードと本庄市の小山川遊歩道とが結ばれます。周辺には文化財や「道の駅おかべ」もあり、風景とあわせてみどころが沢山あります。

スタンプ①

深谷駅と深谷の有名人

【設置場所：深谷駅改札前】

JR 深谷駅を背景に深谷市出身の偉人・渋沢栄一と深谷市イメージキャラクター・ふっかちゃんが記念撮影しているイメージをスタンプにしました！JR 深谷駅は明治 16 年（1883）に開業。現在の深谷駅は、平成８年（1996）にできました。東京駅が深谷産煉瓦を使用していることから、東京駅をイメージして造られ、「関東の駅百選」にも選ばれています。深谷駅の北側には渋沢栄一の銅像がある「青淵広場」もあります。

みんなも深谷に遊びに来たら、記念写真を撮ってみてね★

ＪＲ深谷駅

青淵広場

スタンプ②

ふっかちゃんマンホール蓋

【設置場所：深谷駅　市民サービスセンター】

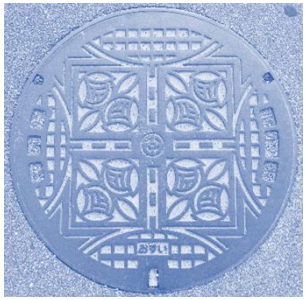
　深谷市イメージキャラクター・ふっかちゃんが描かれたマンホールの蓋（ふた）が市内で増殖中～Ｙ(o0ω0o)Ｙ

　市内を散策したり、サイクリングする時、道路にあるマンホールのふたを注意して見てください。

ふっかちゃんだけでなく、いろいろな模様のマンホールのふたがあるので探してみてね★

豆知識コラム３　いろいろなマンホールの蓋

　マンホールの蓋には、「おすい」や「消火栓」のように、そのマンホールの役割や目的が書かれています。いろいろな模様のふたを探すときは、書かれている文字にも注意してみてください。



スタンプ③

岡部駅

【設置場所：
岡部駅改札内】

JR 岡部駅は明治 42 年（1909）に開業。駅ホームの覆屋等の柱には廃レールを利用している部分もあります。駅の北側の通りを真っ直ぐ進むと、道の駅おかべ、中宿歴史公園、さらにその先に小山川があります。

スタンプ④

道の駅おかべ

【設置場所：道の駅おかべ
ふるさと物産センター入口】

特産の漬物や地酒など地元物産品、地元新鮮野菜のほか、ふっかちゃんグッズも揃え、お土産を探すのに最適★道をはさんで西側の中宿歴史公園内には古代の倉庫が復元されています。

スタンプ⑤ 渋沢栄一記念館

【設置場所：渋沢栄一記念館玄関ホール】

近代日本経済の父・渋沢栄一の事績を顕彰するため、平成７年１１月１１日（栄一の祥月命日）に開館した「論語の里」の中心施設。資料室には、栄一の遺墨や写真展示や栄一の肉声を聞くことができるコーナーもあります。赤城山を望む栄一の銅像も必見。北側には青淵公園が広がっています。

スタンプ⑥ 旧渋沢邸「中の家（なかんち）」

【設置場所：中の家　主屋】

渋沢栄一の出生地は埼玉県の指定旧跡になっています。ここに建つ屋敷は旧渋沢邸「中の家（なかんち）」と呼ばれ、現在の主屋は明治 28 年（1895）に栄一の妹夫婦が建てたもの。東京で活躍していた栄一が帰郷した際に寝泊まりした部屋が遺されています。屋敷の北側にある青淵公園には栄一の雅号である「青淵（せいえん）」由来の跡の碑があります。

スタンプ⑦

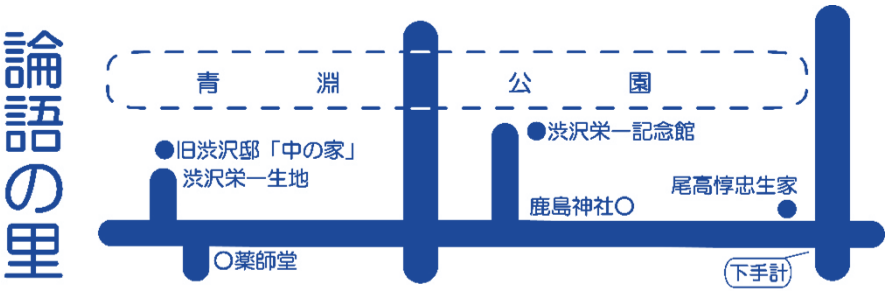
おだかじゅんちゅう 尾高惇忠生家

【設置場所：尾高惇忠生家　主屋】

尾高惇忠は渋沢栄一の従兄であり、学問の師としても大きな影響を与えました。主屋は、この地方の商家建物の趣を残す建物で、その裏手には煉瓦造の蔵があります。主屋の２階では、若き日の惇忠や栄一達が尊王攘夷のため、高崎城乗っ取り計画の謀議をしたと言われています。

豆知識コラム４　論語の里

渋沢栄一は、７歳頃から従兄の尾高惇忠に論語をはじめとする学問を習い始めました。栄一が住んでいた血洗島（ちあらいじま）から、惇忠が住む下手計（しもてばか）へ通った道は「論語の道」と呼ばれ、周辺に栄一ゆかりの史跡等が残されていることから、「論語の里」と呼び整備されています。



豆知識コラム５　渋沢栄一の出身地「ちあらいじま 血洗島」の秘密

渋沢栄一の出身地である「血洗島」。なんとも恐ろしげな地名の由来については諸説ありますが、説のひとつとして、洪水の時に地が洗われて「島」のようになることから、「地洗い（ちあらい）」、「地荒（ちあら）」となって、「地」の字がいつしか「血」に転じたことで血洗島になったというものがあります。

スタンプ⑧ 誠之堂（せいしどう）　【設置場所：大寄公民館エントランス】

誠之堂は、大正５年（1916）、渋沢栄一の喜寿を記念して、栄一が頭取をつとめた第一銀行行員たちの出資により建築、栄一に贈られました。命名は栄一自身によるもので、儒教の経典「中庸」の一節「誠者天之道也、誠之者人之道也」にちなんだものです。設計者は田辺淳吉。外観は英国農家風ですが、室内外の装飾には、中国、朝鮮、日本など東洋的意匠をバランスよく取り入れています。

スタンプ⑨ 清風亭（せいふうてい）　【設置場所：大寄公民館エントランス】

清風亭は、大正 15 年（1926）、当時第一銀行頭取であった佐々木勇之助の古希を記念して、誠之堂と並べて建てられました。誠之堂と同じく、第一銀行行員たちによる出資が建築資金に充てられました

設計者は、銀行建築の第一人者・西村好時。西村自身が「南欧田園趣味」と記述している当時流行していたスペイン風の様式が採られています。

豆知識コラム６　世田谷から引っ越してきた誠之堂・清風亭

ふたつの建物は元々東京都世田谷区にあった第一銀行の保養・スポーツ施設「清和園」内にありましたが、取り壊しが計画されたことから、縁のある深谷へ引っ越しすることとなり、現在の場所へ平成１１年に移築復元されました。

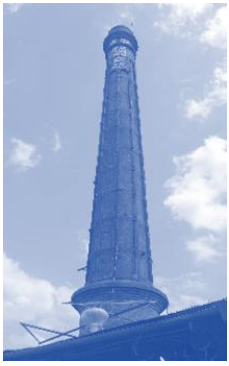
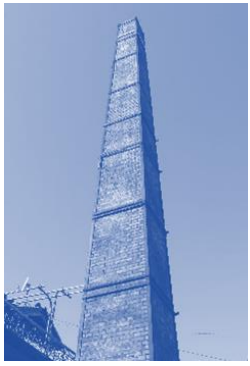
スタンプ⑩（旧煉瓦製造施設）

日本煉瓦史料館

【設置場所：史料館入口（土・日）】
【設置場所：明戸公民館エントランス（月～金）】
※⑱⑲のスタンプも休憩室にあります

日本煉瓦製造会社は、渋沢栄一らによって明治20年（1887）に設立され、上敷免に設置された工場は翌21年から操業を開始しました。最盛期にはレンガを焼く窯が6基稼働しており、現在もこの窯1基や工場操業当初に建てられた旧事務所（現・史料館）等が遺されています。

深谷の煉瓦工場で焼かれたレンガは、東京駅丸ノ内本屋、旧東宮御所（迎賓館赤坂離宮）、日本銀行本店本館などに使用されました。また、地元の深谷でも醸造所の建物などに使用され、現在でもレンガ造りの建物を見ることができます。

市内で見られる酒造のレンガ煙突（左から滝澤酒造(田所町 9-20)、丸山酒造(横瀬1323)、藤橋藤三郎商店(仲町 4-10)、旧田中藤左衛門商店(深谷町 9-12・深谷シネマとなり)）利根川、荒川の豊かな伏流水によって深谷の地酒が育まれてきました。

豆知識コラム7　レンガと川の意外な関係

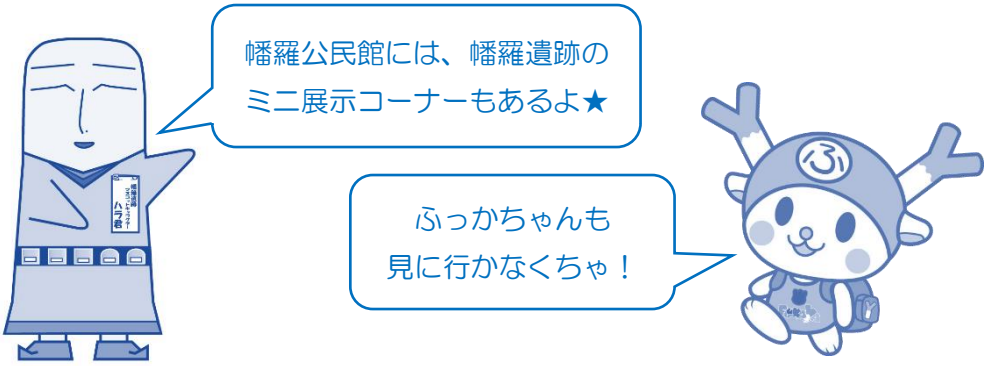
明治時代、煉瓦工場を上敷免に建てることを決めた理由にも「川」が関係しています。まず、レンガの材料に適した粘土が川の力によってこの辺りにたくさん運ばれてきていたこと。もうひとつが、焼きあがったレンガを舟によって東京方面に出荷できたことです。工場から舟を使ってレンガを運ぶ時は、小山川・利根川が利用されました。

スタンプ⑪ハラ君【設置場所：幡羅公民館エントランスホール】

古代の郡役所（ぐんやくしょ）跡の幡羅遺跡（はらいせき）からは、建物のあった跡だけでなく、土器や金属製品など、さまざまなものが発見されました。

そのなかに、線を刻んで顔を描いてカマド神を表現した土製品もありました。これをモデルに生まれたのが、幡羅遺跡マスコットキャラクターのハラ君です。

熊谷市側の西別府祭祀遺跡（にしべっぷさいしいせき）や深谷市側の幡羅遺跡を含む広い範囲が、古代の役所跡として、国の史跡「幡羅官衙遺跡群（はらかんがいせきぐん）」に指定されています。



スタンプ⑫

中宿古代倉庫群（なかじゅくこだいそうこぐん）

【設置場所：岡部公民館】

中宿遺跡からは奈良時代～平安時代に使われた大規模な倉庫群跡が発見されました。古代の榛沢郡（はんざわぐん）の正倉（しょうそう・税として徴収した稲を保管する倉庫）と推定され、発見・調査時は県内初の例として話題を集めました。

現在は「中宿歴史公園」として整備され、古代倉庫２棟が復元されています。

公園周辺では、春の桜、夏には園内の池で「原始蓮（げんしはす）」が見られるスポットとなっています。

復元された倉庫

原始蓮の花

⑬【設置場所：道の駅はなぞの】

「道の駅はなぞの」には、深谷市指定の有形民俗文化財である小前田諏訪神社の祭屋台３基が展示されています。

　毎年１０月のお祭りでは、上町・中町・本町の３基の屋台が曳き回されます。

⑭【設置場所：道の駅かわもと　物産館】

「道の駅かわもと」物産館では、畠山地区出身で武蔵武士の鑑と称された畠山重忠のＰＲを行っています。

スタンプ⑮ 武蔵武士の鑑・畠山重忠公

平安時代の終わりころから鎌倉時代のはじめにかけて活躍した武蔵国を代表する武将・畠山重忠は、現在の深谷市畠山の地に生まれました。元々、平氏に属していた重忠ですが、源頼朝が打倒平氏のため立ち上がった後、源氏に従うこととし、以降は頼朝のもとで功績を重ねました。武勇の誉れ高く、また文化的な才能や清廉潔白さをあわせ持っていたことから、後に「武蔵武士の鑑」と称されました。

【設置場所：川本出土文化財管理センター】

畠山　重忠

鶯の瀬

赤糸威大鎧

畠山重忠墓

深谷にはまだまだ、たくさんのスタンプがあるよ！

～スタンプを探して、あいているスペースにドンドン押そう！～

⑯【設置場所：豊里公民館】

豊里★大好き

⑰【設置場所：明戸公民館】

明戸★大好き

⑱＆⑲【設置場所：日本煉瓦史料館　休憩室】

レンガ大好き

小山川

自由ページ

スタンプ帳に載っていないスタンプを押したり、
気付いたことをメモしてみよう！

自由ページ

小山川ウォーク＆サイクルロードを利用する皆様へ

- マナーを守って利用しましょう。
- ゴミ拾いにご協力をお願いします。
- 自転車はスピードの出しすぎに注意しましょう。

スペシャルスタンプ★ **深谷ねぎ旬間（じゅんかん）**

【設置場所：イベント時に登場！】

「深谷ねぎ旬間」の取り組みは、シティプロモーションの一環として進められています。
１１月２３日（勤労感謝の日・深谷ねぎらいの日）から翌年１月末日頃を冬ねぎが一番甘みを増す時期として「深谷ねぎ旬間」と名付け、深谷を盛り上げる取り組みが色々と行われています。

豆知識コラム８　深谷発！「深谷ねぎらいの日」★

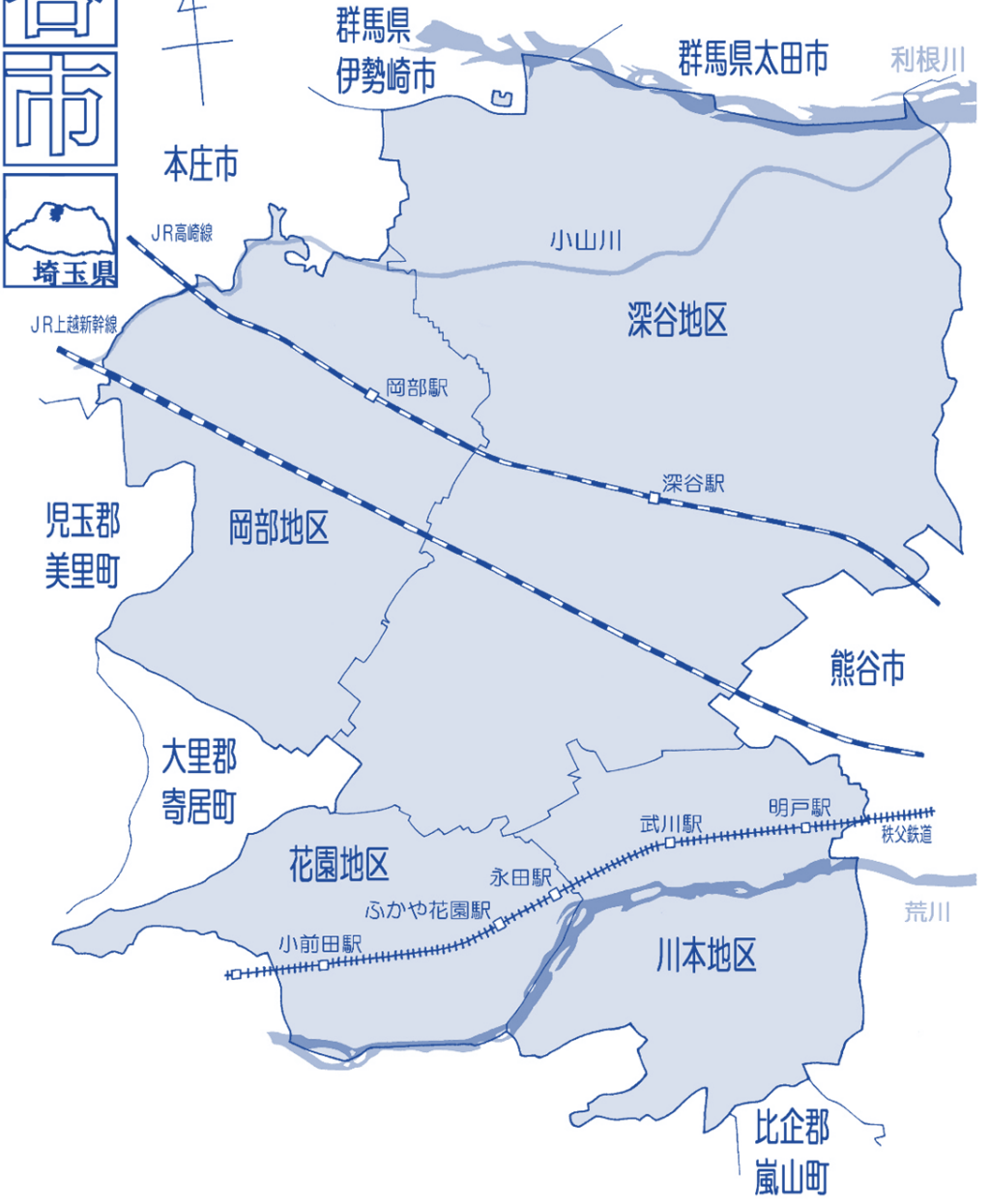
１１月２３日「勤労感謝の日」に、大切な人へ労い（“ねぎ”らい）の気持ちを込めて「深谷ねぎ」を贈ろう、という深谷発の新習慣です。

「深谷ねぎらいの日」に深谷市内では、深谷ねぎを花束のようにラッピングした「ねぎ束」や深谷ねぎを使った料理の販売、新しい深谷ねぎ料理レシピなど、さまざまな方法の“ねぎらい”を提案しています。

深谷市

深谷市は、東京都心から７０ｋｍ圏内の埼玉県北部に位置するほぼ平坦な土地で、利根川と荒川に育まれた肥沃な土壌の恩恵により、野菜・花卉の生産、畜産が盛んで自然豊かです。

古くは主要街道の宿場や河岸（かし）もあり、近・現代は大都市から近い立地を活かし、商業・工業もバランス良く発展してきた街です。



スタンプ⑳

現代の教育に生きる渋沢栄一翁の精神

新一万円札の肖像図案への採用が発表された深谷市出身の渋沢栄一翁は、幼い頃から論語などを学び、実業界で活躍するようになってからも論語の教えを大切にして行動しました。深谷市教育委員会では、こうした栄一翁の精神を子どもたちの教育へも活かす取り組みを進めています。 ※ 翁（おう）とは、老人男性の敬称です。

深谷の子「６つの誓い」

「立志の精神」

①夢に向かって努力します。 ②毎日勉強します。 ③たくさん挑戦、体験します。

「忠恕の心」 ※忠恕…真心と思いやりがあること。

④すすんであいさつをします。 ⑤脱いだ靴をそろえます。 ⑥心のこもった言葉をつかいます。

渋沢栄一翁の「立志の精神」と「忠恕の心」を受け継ぎ、子どもたちの基本的な生活習慣・学習習慣を育むための取り組みです。

【設置場所：深谷市民文化会館】